

秋田 藤里 きらりプロジェクト 参加報告書

この夏、昨年度2月に同じくボランティアで訪問させていただいた秋田県藤里町に行ってきました。流れは冬と同じく社会福祉協議会の方に協力していただいたのですが、今回はきらりプロジェクトという社会福祉協議会さんの企画への参加という形でボランティア等の藤里の地域での活動をさせていただきました。

既に一度訪問したこともあってか、顔を覚えてくださっていた方もいて、暖かく迎えていただきました。初日、挨拶の後は一人暮らしの高齢者の方のお家を訪問しました。私は冬にもお邪魔した方のお家でしたので、すごく懐かしくて、遠く離れているおばあちゃんの家に来たようなきもちになり、ほくほくしました。お菓子やジュース、スイカと豪華にもてなしていただき、聞き慣れない秋田弁を懐かしく思いながら、いろんな話を聞かせいただきました。夏は東京と同じくらい暑いこと、畑仕事をしていたら熱中症で倒れてしまったこと、その畑が猿に荒らされてしまってほとんどだめになってしまったこと、畑は社協さんの近くにあること等お話しして、あっという間の時間でした。元気でなによりでした。冬にもまた行きたいと思います。

お昼の後は社会福祉協議会の併設されているデイサービスへ行きました。デイサービスでは9月の方のお誕生日会をする日で、ごまちゃんからは練習したよさこいを踊ったり、歌を歌ったりして余興をしました。その後は傾聴をしました。人口3500人の町であるので、他の地域との交流もあまりなく、若者もいないので、東京の話や、私たち若者にとって普通であるようなことをお話しても、とても興味深そうに話を聞いてもらえました。私も秋田の方のお話はやっぱりとても興味深かったです。例えば、お名前を最初に伺うことが多いのですが、こちらでは聞きなれないような名前が多く、漢字も特殊であったり、カタカナが入っていたりなど、それだけでもとても話が盛り上がりもしました。あとはこちらではなかなかお目にかかることのない山菜だとか、郷土料理の話もそうです。こちらでご馳走になるポテトサラダは甘いとか、ミズの漬物は美味しいとか、あの山菜はこういう形をしているとか、本当に聞いていて飽きることなく、時間はあっという間でした。秋田の方にとっては半年に一回来る程度のただの若者であるのに、もったいないくらいの感謝を受けて、デイサービスを後にしました。

デイサービスも終わり、一日目の最後は新しく改装されたかもや堂という場所で動画制作のワークショップを受けました。動画作りとのことで、編集技術などのこととと思っていたのですが、カメラの向け方、撮る対象、光の受け方など、そのまま写真を使うときに応用できるものばかりでした。簡単にそういったことを教わったあと、教えてもらったのを参考に動画を撮り、今藤里でやっているフジサトレックという企画に参加する、というの

がワークショップの流れでした。現在、ごまちゃんの一つのグループの動画がオーディエンス部門で現在二位です。

二日目は社協さんからきりりカリキュラムについてや、現在の藤里で行っている活動などの説明を受けて、お昼のあと北部地区の方と交流をしました。冬にも行ったので私は二回目になります。北部地区には小学校の体育館のような広い集会所があって、孤立化を防ぐために毎日任意で集まって交流をしているらしいです。普段は数人であることも珍しくないようなのですが、当日は私たちが来るということもあって、たくさんの方が来ていらっしかったです。覚えてくださった方もいて、本当に暖かく受け入れていただきました。そのあとは、有名な滝につれてってもらったり。開発中の施設の見学もさせていただきました。

三日目は熟年バレーの方とバレーをやりました。もう何年も熟年バレーさんとバレーをしてきて、一度も勝てたことがなかったのですが、なんと今回、初めて勝つことができました。90歳近くの方がいらっしたりして、年齢差がすごく離れているのにも関わらず、部活の先輩と試合をしているような、そんな感覚でした。一緒に持ち寄ってくださったトマトをいただき、一緒に応援したり試合に出たり。冷たい飲み物もいただきました。藤里の人々の暖かさにすごく触れた時間でした。

その日の午後はぶなっちという、高齢者の方のグループホームも訪問させていただきました。お風呂の時間だったそうで人は少なかったのですが、わざわざ出てきてくださったりして、歓迎してくれました。

そして最後に、かもや堂で社協さんとの交流会をしました。一緒に料理を作ったり、おつまみを持ち寄ったりして、みんなでそれを囲みながらお話ししました。普段もすごく接しやすく気軽にお話ししていただけるのですが、一緒に料理作ったりもあってとても親密になれたような気がしました。今回の秋田プロジェクトまでは先輩が色々社協さんと連携したり手続きをしたりして参加できているのですが、次回からは私の代がやります。社協さんと今まで地域の中、社協さんにとっての仕事しかお話できなかったのも、このような機会があって本当に良かったです。

今回の国内研究を受けて、私は継続することの重要性を学びました。去年から授業にてボランティアはボランティアが必要である限り継続しなければ意味がない、自分の行きたいままに行くことは自己満足である、という内容が取り扱われることがよくありました。私たちはこの秋田への訪問を続けて12年目になりますが、この長い年月で積み上げてきた信頼、強い結びつきは大きいものです。しかし、ただ行くことだけを続けるのならば誰にでもできてしまうし、意味がありません。継続を言い訳にして中身の無いものは、それこそ自己満足になってしまいます。今回自信を持って中身があった、何かを残せた、とは思えませんが、私たち一回一回の訪問が毎回大切であることの意識が、本当に大事であると思えました。

それから、この秋田への訪問はボランティアにありがちな「施し」側と「施される」側

が存在しない、双方がその関係になりえるものだと思っています。私はまだ二回しか訪問していませんが、毎回秋田の最先端の福祉を見て感動します。人の暖かさに触れます。秋田へ行くことで客観的に東京を見ることができます。そして、何より傾聴のボランティアが本当に、何よりの思い出になります。東京のお話をして秋田の話をしてもらうことはきっと私たちのような人物しかできません。皆さんがお元気でいて下さること、毎日の生活に私たちがほんの少しだけ刺激を与えることができたのなら、そんなに嬉しいことはないです。

私の傾聴ボランティアをやる目的は、利用者さんの言ってしまえばゆっくり死に向かっている間に、少しでもその人の人生の最後の締め、いかに楽しかったか、いかに誇りを持ってもらえるか、そのお手伝いが出来たらいいなと思って続けています。人生の大先輩である利用者の方とお話することは、それだけでも勉強になること、幸せに思うことだと思し、実際、学ぶことはたくさんあります。秋田へ行ってもこの目的は変えていないのですが、それをさせていただいている時点で、いかに自由にボランティアをやらせてもらっているかがすごくわかります。長年の信頼がここにありありと出ていると思いました。それを絶やさないためにも、これからも大切に後輩に引き継いでいきたいです。